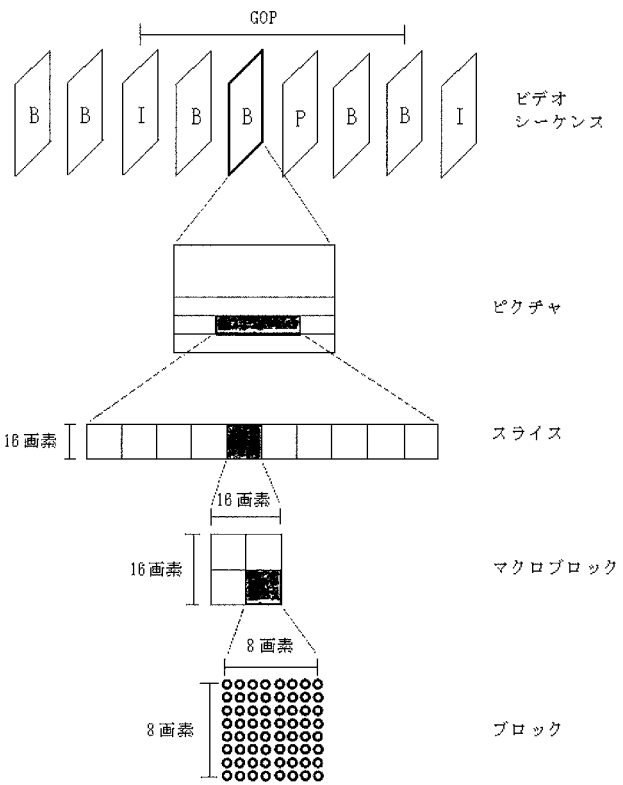
別表第二号　符号化後の映像信号の構成



注１　ビデオシーケンスは、符号化を行う最上位の構文構造であり映像信号を構成する一連の画面を示すものとする。

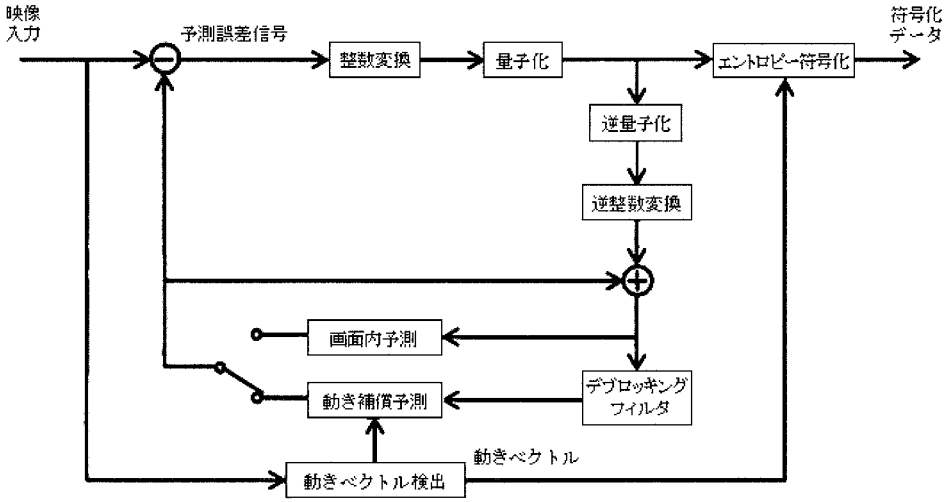
２　ＧＯＰは、Ｉピクチャ（現在の画像情報のみを使用して符号化された画像をいう。）、Ｂピクチャ（現在、過去及び未来の画像情報を使用して符号化された画像をいう。）又はＰピクチャ（現在及び過去の画像情報を使用して符号化された画像をいう。）により構成され、少なくとも１枚のＩピクチャを含むものとする。

３　ピクチャは、１枚の画面を示すものとする。

４　スライスは、同一水平行に位置する任意の数のマクロブロックにより構成されるものとする。

５　マクロブロックは、16×16画素の輝度信号及び空間的に同じ場所に位置する８×８画素又は16×８画素の二つの色差信号により構成されるものとする。

別表第三号　画面内予測符号化方式、動き補償予測符号化方式、整数変換方式及びエントロピー符号化方式を組み合わせたものによる映像信号の圧縮手順及び送出手順



注１　整数変換は、４×４画素及び８×８画素のブロックに対する整数精度の直交変換処理を示すものとする。

２　画面内予測は、現在の画像情報において符号化処理済みの隣接ブロックの画素を用いて予測を行う処理を示し、動き補償予測は、未来及び過去の複数の画像情報を用いてブロックサイズを可変とする動き補償予測を行う処理を示すものとする。

３　デブロッキングフィルタは、符号化に伴いブロックの境界に発生するノイズを低減する処理を示すものとする。

４　逆量子化、逆整数変換及びエントロピー符号化は、ＩＴＵ－Ｔ勧告H.264に従うものとする。

５　動きベクトル検出は、16×16画素、16×８画素、８×16画素、８×８画素、８×４画素、４×８画素又は４×４画素単位に行うものとする。

６　符号化データは、ＩＴＵ－Ｔ勧告H.264の映像ビットストリーム構文に従い生成するものとする。

別表第四号　時間周波数変換符号化方式及び聴覚心理重み付けビット割当方式を組み合わせたものによる音声信号の圧縮手順及び送出手順

